

## 鹿児島の植物 79

## 甑島の固有種

植物担当 久保 紘史郎

甑島は、いちき串木野市の沖合約45kmにあり、令和2年に上甑島、中甑島、下甑島の有人3島が橋でつながり、南北約38kmの列島を車で移動できるようになりました。甑島の植物は、7月～8月に草原を彩るカノコユリが有名ですが、他にも、甑島にしかない固有種が知られているので、紹介します。

## 【コシキギク(キク科)】



花期は10～11月。厚みのある葉が特徴的で、白～淡紫色の花を咲かせます。発見当初は、紫色の花を付けるノコンギクと厚い葉のダルマギクの雑種と考えられていましたが、後の調査で、雑種ではなく独立した新種ということが分かりました。よく観察してみると、ノコンギクとダルマギクの間期的な特徴を持つので、当初雑種と思われていたのも理解できます。

## 【サツマチドリ(ラン科)】



花期は6～7月。下甑島西海岸の断崖絶壁などに生育する美しいランです。県本土にも生育するウチョウランの仲間によく似ていますが、花が小さく、花弁に赤紫色の斑点が入るものが多いなどの違いがあります。花が美しいため、乱獲され、今では人が近寄れない断崖絶壁にしか自生していません。

## 【コシキイトラッキョウ(ヒガンバナ科)】



花期は10～11月。長崎県平戸島に分布するイトラッキョウに似ていますが、葉の中に空洞があり(中空)、花が白っぽい点などで違いがあります。サツマチドリ同様に断崖絶壁等に生育しており、写真を撮影するのはなかなか大変です。この写真は100m以上切り立った崖を現地の方に案内していただき、何とか撮影することができた1枚です。

## 【サンコカンアオイ(ウマノスズクサ科)】



花期は4～5月。下甑島の標高の高い林内に生育しています。九州本島に生育するツクシアオイに似ていますが、雄しべと、めしべ(花柱)がそれぞれ6本と3本で、ツクシアオイの半分の数しかありません。その3本のめしべの形が、仏具の三鈷(サンコ)に似ていることから、名前が付けられています。